

総合的な学習の時間における One Page Portfolio シートを用いた振り返りの機能向上

学籍番号 189971

氏名 越場謙太郎

主指導教員 庭山和貴

1. 背景

1.1 先行研究と目的

新学習指導要領では総合的な学習の時間の内容の一部である探究学習において、言語活動の重要性や、他者との協働の重要性が記載されている。探究学習において重要とされる要素の一つとして活動を振り返ることが挙げられ、生田（2017）は「振り返り・考えの更新により自己の課題が明白になる」「生徒による相互評価を実施することで、自己の成長を実感し学習意欲が高まる」としている。またこの振り返りを効果的に行うための手段の一つとして、一枚ポートフォリオシート（One Page Portfolio Sheet）がある。榎本（2017）は「毎回の内容の蓄積により、生徒の思考の変化をたどることができ、指導の改善に繋がる」としている。また堀

（2012）は「一枚ポートフォリオシートの利用により、生徒が自己変容を理解でき、思考の可視化が可能」であるとしている。また昨年度実習校において行われた質問紙調査の結果、授業後の振り返りに改善の余地があることを踏まえて、本実践課題研究の課題設定を行った。本実践課題研究では、一枚ポートフォリオシートの利用により、見通しを持たせやすくし、他者からの意見を記すことで複眼的視野から課題認識が出来ることを目的とする。

1.2 実習校の総合的な学習の時間の概要

実習校である大阪教育大学附属平野中学校では、総合的な学習の時間として「JOIN」が行われている。学年毎に興味関心に応じた4人までのグループを構成し、自分達で課題を設定し、実験や専門家へのインタビュー、質問紙調査などを行い、成果をポスターにまとめる活動を実施している。本実践研究においては、この時間を対象に一枚ポートフォリオシートを作成し、振り返りを実施した。

2. 実践研究

2.1 実践研究Ⅰ（基本学校実習Ⅱ）

本実践研究では、2回の発表機会である参観と研究発表会での発表の間に受けた指摘、それを次回発表までにどのように改善するのかを明文化する活動をグループに行った。その結果、「多角的な視点からの意見により、複眼的な視点が得られた」「自身の考えを聞かれたので、次回までに改善したい」という意見があり、他者の意見が、発表の質改善に役立つことが示唆された。また、実習校主指導教員が実施した5件法において実施された質問紙調査の結果、「毎時の振り返りを生かせたか」という項目において改善の余地が見受けられた。

2.2 実践研究Ⅱ（発展課題実習Ⅰ）

本実践では、一枚ポートフォリオシート及びルーブリック評価を作成し、振り返りシートとして学年全体で活用することで、複眼的視野から課題認識を行うことを目的とした。一枚ポートフォリオシートは授業4回分の内容が一枚で総覧出来るものとした。ルーブリック評価は「視点の多様性」と「記述の論理性」の2つの観点から作成した。今回は、「学んだこと及び他者の意見で参考になった点を書いた上で、自分なりの新しい意見」について記述した。その結果「友人の意見により幅が広がった」「自分はこう考えたが友人の意見により新たな視点が得られた」という記述が見られ、他者から意見を受けることで、視野が広がり、課題を多角的により深く捉えられることが示唆された。その一方、感想のみを記述したり、自分なりの新しい意見を書けない生徒も見受けられた。その原因として、一枚ポートフォリオシートに記述するよう指示した他者の意見の「他者」が誰を指すのかの説明が不十分であり、グループ内の他の生徒に限られると解釈した生徒が多かったこと、議論に熱中して上手く書ききれなかったことなどが挙げられる。

2.3 実践研究Ⅲ（発展課題実習Ⅱ）

本実践では、一枚ポートフォリオシートに記入すべき他者の概念を説明することで、振り返りの記述内容に変化があるのかを検証することを目的とした。まず、学年全体に対し他者とは本や教員、班内外の友人の意見であることを教示した。その上で、昨年の学年のポスターセッション時のポスターを写真で提示し、自分達のポスター制作に活かせそうな箇所はどこかを中心に指導した。評価結果として、以前よりも望ましい記述が多く見られ、ポスターセッションにおいても7グループ中6グループが昨年度のポスターから得た工夫を用いながらの発表を行っていた。生徒達の振り返りシートの記入を見ると、今後の計画を細かく記述したものが多かった。本実践課題研究において自身の作成した評価基準では、そのような点を十分に評価出来ないこともあったので、ルーブリック評価は再考すべきだったといえる。

3. 総合省察・結論

以上の実践から、結論は以下の3点である。

1 点目は、複数回の内容を一枚で総覧し、毎回の思考の変化を辿り考えの整理を行うことで、今後の見通しをもって活動内容を立案できることが挙げられる。

2 点目は、写真などの具体物を提示することで、自身に活かせそうな箇所を取り入れることができ、発表の改善に繋がるということである。今回写真を見せた後に別途資料を作成したり、自分達の発表にどのように生かすのかの記述が多く見られた。生徒達は自分達で想定していた以上のものを知ることで、グループ内での意見交流が活発になったといえる。

3 点目は、課題の定義設定に時間をかけることが大切ということである。ポスターセッションの発表において、「正しい知識を伝えたい」「正しいイメージを伝えたい」という言葉が多く見られた。ただ、その「正しさ」が多くの立場から勘案されたものである必要があるため、反証能力を高めることが必要であったといえる。

将来的に、生徒が主体的に調べたいと思えるような授業作成に励みたいと思う。